

日本の問題を真剣に考えよう

日本は、国家存亡の危機

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)今日は少し難しいお話をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

(3)高校野球の予選が各地で盛んに行われています。高校野球においてはピンチのときもあればチャンスのあるときもあると言われるますが、では日本はどうかというお話をさせていただきます。

2. 日本の問題を真剣に考えよう 日本は、国家存亡の危機

極端な言い方をしますと、今の日本は国家存亡の危機に陥っています。ですから、国民一人ひとりが日本の問題を真剣に考えたほうがよいと私は思います。

(1)日本の問題の 1 つは、人口問題です。皆さんもよく御存知だと思いますが、日本はこれから人口が減り始めて、あと何十年かすると現在の 1 億 2000 万人から 9000 万人になると言われています。これはどういうことかと言うと、生産年齢人口、つまり働く人がどんどん減っていき、60 歳以上の高齢者がどんどん増えていくということです。

(2)これにプラスして、日本には既に 1000 兆円ぐらいの借金があり、この借金を国と地方自治体が抱えています。ですから、今後どんどん増え続ける高齢者への医療費や介護費を、減り続ける働く人々が負担しなければなりません。これだけでも、国や地方自治体の危機であると言われてきました。

(3)これらの問題に加わったのが、3 月 11 日の東日本大震災です。1000 年に 1 度と言われるほどの大きな地震と津波が発生して甚大な被害をもたらし、これに加えて、原子力発電所の事故による放射能被害と、日本の電力量の 30 % を賄うすべての原子力発電所の完全停止という問題が発生しているからです。そして今後は、直下型地震が東京や首都圏で発生する可能性、これまでと同程度の余震が日本各地で発生する可能性が極めて高いとも言われています。

(4)言いにくいことですが、原子力発電所の事故による放射能汚染の問題があり、電気の供給量が 30 % も減るといった問題がある上に、法人税の税率が世界一高く当面は他の国並みに下がる様子がないとなると、日本はどうなるのでしょうか。外国の企業が日本に進出してくることは少ないで

しょうし、日本の企業も国内では仕事がしにくくなって、日本からの脱出を図る可能性がどんどん高くなります。言うまでもなく、日本の企業が外国に進出する前に、日本にある外国の企業はどんどん出ていってしまいます。

- (5) また、日本は国も地方自治体も、外国の企業に対する支援が他の国に比べて極めて不十分です。そのため、外国から日本に入ってくる企業は今までも少なかったのですが、今後はさらに少なくなると思われます。日本の企業や日本にある外国の企業は日本からの脱出を図り、外国から日本に新しく進出する企業はこれまで以上に減るとい状況になるとどうなるかと言いますと、既に1000兆円にも膨れ上がった国と地方自治体の借金は永久に返すことができなくなります。それどころか、高齢化で必要となる医療費と介護費も賄えなくなります。それから、生産年齢人口、つまり働く人々の職場も失われることとなります。
- (6) では、日本国内で今作っているような質の高い製品を、海外で作ることができるのか、そのような力は海外にはないのではないかということも言われますが、決してそのようなことはありません。日本を取り巻くアジアの新興諸国はめきめきと力をつけてきて、日本のものづくりのすべてを自分たちの国でやらせてほしいと考えているからです。
- (7) アジアの国々から、アメリカやヨーロッパの国々に留学をして大学・大学院をトップクラスの優秀な成績で卒業したあとに、欧米系の超一流企業で活躍していたプロフェッショナル、つまり専門職業人の方々が母国に帰ったり、アジアの新興諸国に行ったりして自由自在に大活躍を始めました。これは、新興諸国にも質の高い製品を作る担い手がいるということです。その数は驚くほど多いのです。アジアの新興諸国は、日本が今まで享受していたような仕事、特にものづくりをしてそれらを世界中に輸出し、日本のように豊かで安全な生活がしたいとのことだと私は思います。
- (8) これらは国家の存亡の危機にも関わります。危機を乗り切るには、日本国内の問題と、日本を打ち負かすほどの力をつけてやる気満々の日本を取り巻く新興諸国の存在を、日本国民の一人ひとりが正確に認識した上で、なすべきことを力を合わせて考え、力を合わせて行い続ける以外にないと思います。
- (9) 例えばどのようなことかと言いますと、非常に言いにくいことですが、高齢者の方は生き方の模範を示すことです。現在罹っている病気は1日も早く治す努力をする、これも言いにくいことですが、認知症にならない努力をする、仮に認知症になっていてもあきらめないでリハビリをすることです。また、飲み込む力が強ければチューブや胃瘻の世話にならずに済みますので、歯科医院に行っているいろいろな指導や治療を受け、できるだけ飲み込む力を強くすることです。
- (10) 終末医療、つまり人生の最後の治療は非常にお金がかかります。1か月に100万円近くかかる場合もあり、そのほとんどが税金で賄われますので、自分がその立場になることをできるだけ避けることです。そのためには、元気なうち、意識がしっかりしているうちに終末医療を拒否する意思表示をしておくことも1つの考え方であると思います。もちろん、現在病気に罹っている方は、その治療に専念していただきたいと思います。

(11)それから、難しい病気以外はジェネリックの薬を選ぶ・必要な薬以外は病院から受け取らないことなどもしていかないと、つまり、自分の健康は自分で守っていかないと、後世に支払いを残してしまいます。高額な医療や介護のお世話になるべくなならないことが、自分が亡くなったあとの最大の貢献と考えるのも1つの考え方であると思います。

(12)一方で、企業には、どのような仕事でもよいですから85歳過ぎまで働けるような環境をつくっていただきたいと思います。できれば生涯現役を貫けるような、85歳以上の方にたとえ1円でも賃金を受け取っていただけるような努力を企業にさせていただき、みんなで支え合うことです。

(13)また、優秀な外国人もたくさんいらっしゃいますので、どんどん採用するのも1つの手です。このままだと人口はどんどん減っていきますからね。

(14)それから、サービス産業の方は海外に打って出ること手だと思えます。こうして、ほかの国に負けられないようにすることを国じゅうで考えないと大変なことになります。

(15)中でも、一番の問題は政治の混乱です。政治の混乱をできるだけ早く収束し、国民が力を1つにしてこの国の危機を乗り切れることをそろそろ考えないと、日本は本当に危くなると思えます。もしかしたら、栃木県も財政が立ち行かなくなり、栃木県内の市や町も大変な状況になると思えます。

3. おわりに

毎日暑いですが、これらの難しい問題について、自分のこととして、ゆっくり考えたいと思います。